今できること プロジェクト

2021-2022

復興から伝承へ

レポート

気仙沼の新たな特産発信支援 気仙沼市 「防災を学び、 農業と漁業の生産現場を巡る バスツアー

実施/2022年1月22日 参加者/36人



伝承を誓い、豊かな恵みの感謝を抱いて。

今回は、東日本大震災の教訓を後世に伝え継ぐための伝承施設見学からスタート。

当時を深く知る語り部とともに、津波の脅威をそのままに伝える震災遺構を巡り、来たるべき大災害から命を守る心構えと知恵を学びました。 最盛期を迎えている気仙沼イチゴや大島瀬戸のカキの生産現場では、旬の恵みを味わいながら、生産者の情熱に触れる貴重な機会に。 震災の記憶を決して忘れることなく歩み続け、復興の未来を目指す気仙沼の"今"を体感できるバスツアーとなりました。

震災の記憶に触れて 災害から身を守る学びを

仙台駅東口から36人の参加者を乗せたバスは、気仙 沼市波路上(はじかみ)地区の「気仙沼市東日本大震災 遺構・伝承館」へ向かいました。一行を出迎えたのは、 館長の佐藤健一さんとスタッフの皆さん。震災伝承館で 気仙沼を襲った津波の記録映像を上映後、語り部の芳 賀一郎さんと近藤公人さんの実体験に基づくガイドで、 津波の発生を再現したジオラマや当時の被害状況を伝 える写真パネルが展示された館内を巡りました。

流されてきた冷凍工場の建物が激突した痕跡が屋上 近くの壁面に残る4階建ての気仙沼向洋高校旧校舎は、 震災遺構として当時のまま保存されています。3階の教室 には、なぎ倒された防潮林や自動車が窓を突き破って 積み重なり、津波のすさまじい威力が随所に見られます。 「屋上にたどり着いた避難者は皆、死を覚悟したそうで す」という語り部の言葉に、迅速な避難こそが津波から命 を守ることを参加者は一様に再認識した様子でした。



「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」 避難の様子を克明に語る 芳賀一郎さん



旧校舎屋上を案内する近藤公人さん

2011年3月22日、多くの避難者で埋まる体育館で行 われた階上中学校卒業式での生徒会長梶原裕太さん の映像で見学の最後を締めくくりました。涙を拭い、言 葉を詰まらせながらも気丈にしっかりとした答辞を述べ る姿に参加者は誰しも涙腺が崩壊。この地で起きた過 酷な出来事をしっかりと胸に刻みました。

被災前から作り続けてきた イチゴの味をより多くの人へ

伝承館からほど近い農業法人「シーサイドファーム波 路上」では、出荷調整場で佐藤信行代表が挨拶。震災 後に圃場整備された土地で、波路上地区の被災農家が 法人組織として塩害に強いネギと特産だった気仙沼イ チゴのブランド復活に取り組んでいます。一行はイチゴ の高設養液栽培を行っているハウスを見学。スタッフの 鈴木諭さんが案内役となり、気温や湿度の厳密な空調 管理やハチを利用した受粉など、おいしいイチゴを育 てるための工夫や苦労を教えてくれました。鈴木さん は、「この地域で育てた香り高い気仙沼イチゴのおいし さを知ってくれる人が増え、地元の盛り上がりにつなが れば」と話してくれました。



代表取締役の佐藤信行さん 鈴木諭さん

施設を後にし、佐藤さんが代表を務める遺族会が建 立した「杉ノ下地区慰霊碑」を車窓から見学。海抜11 メートルのこの場所は、1896年の明治三陸大津波では 無事だった気仙沼市の指定避難場所でしたが、東日本 大震災では想定外の高さの津波が押し寄せ、地区で93 人が犠牲となりました。一行は石碑に刻まれた名前に鎮 魂の祈りを捧げ、この地の復興を願いました。



遺族会の追悼文が刻まれた「杉ノ下地区慰霊碑」※2021年夏に撮影

ドラマのロケ地に選ばれた 絶景の海で育まれるカキ

気仙沼市中心部に向かう途中、内ノ脇(ないのわき) 地区で整備中の復興市民広場内の民間震災遺構「命の らせん階段」も車窓見学。南三陸地域でホテルや水産 業を営む「阿部長商店」創業者の自宅兼事務所を曳き 家して保存した建物で、地域住民20人の命を救った外 付けのらせん階段が、参加者に大切な教訓を訴えかけ ました。バスが気仙沼市魚市場に隣接する複合観光施 設「海の市」に到着し、ランチタイム休憩。施設内のレス トラン「リアスキッチン」で特製の海鮮丼を味わい、この 地ならではの海の恩恵を楽しみました。

午後は、2019年に開通した気仙沼大島大橋を渡り、 亀山の麓でカキ養殖業を営む「ヤマヨ水産」を訪ねまし た。対岸に本土を望む小さな入り江で待ち受けていた

のは、代表取締役 の小松武さん。震 業再興に至った経 緯に耳を傾けなが ら作業場へ向かう と、そこにはNHK



連続テレビ小説 大粒で濃厚な風味の蒸しガキを味わう参加者

「おかえりモネ」の撮影で使用された看板が。思いがけ ない出合いに参加者はびっくり。出荷を控えた大ぶりな カキを集めた滅菌海水プールが並ぶカキむきの加工場 では、蒸気を噴き出している鍋が。小松さんが鍋のふ たを開けて熱々の蒸しガキを取り出すと、一行から歓 声と拍手が湧き上がりました。参加者はカキの上手な むき方を教わったり、今年5月にオープン予定というカ キ小屋の屋上で大島瀬戸の海原を眺めたりと、ヤマヨ 水産のおもてなしを満喫。若林区から参加した女性は、 「小松さんたちが丹精込めて育てたカキをこうして現地 で味わうことができて、感謝の気持ちでいっぱいです」 と、その喜びを振り返ってくれました。



武さんのお母様の小松登喜子さんが滅菌海水プールから取り出した殼付きカキの 開け方をレクチャー

参加者の声

佐藤秀人さん・恵さん・奏大さん (宮城県村田町)

気仙沼市は久々の来訪だとい う佐藤さん一家。「息子は、震災 時にまだ生まれていなかったの で、このツアーで震災や被災地 について触れる良い機会を得ら れました」と秀人さん。恵さんも 「内陸に住んでいるので、津波被 害がいかに恐ろしいものか、今 回よく知ることができました」と話 します。きれいな海に感動ひとし きりの奏大さんは、「大地震の時 は、すぐに逃げることが大事だと 分かった」と、この日の学びを しっかり心に刻んだようです。



菅原弘行さん・公子さん・優那さん (仙台市若林区)

「震災を経験しながらも、時間 の経過によって備えの意識が薄 れていると気づき、その甘さを実 感しました。家族で今、どんなこ とができるかを考えてみたいです ね」と弘行さん。公子さんは「実 際に現地を訪れ、家族みんなで いろいろな方の話を聞けたこと が本当に有意義だったと感じて います」と語ってくれました。実は カキが苦手だったという優那さん は「大島のカキがおいしくて、も りもり食べられました!」と、大満 足の様子でした。



私たちも、復興のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アサヒビール 東北統括本部/岩手日日新聞社/NTTデータ東北/オリックス/キリンビール 東北統括本部/ケーズデンキグループ・デンコードー/劇団四季/光輝ビルテクノス/サッポロビール 東日本本部 サントリー酒類 東北支社/JTB 仙台支店/住友不動産 東北支店/生命保険協会 宮城県協会/大和証券 仙台支店/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐勘/東急リバブル 東北支店/東伸環境/NISHIKIYA KITCHEN 日本製紙/日本製紙クレシア/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/日立システムズ/平松剛法律事務所/藤崎/富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ/みちのく企業グループ/三井不動産 東北支店 三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/みやぎ生活協同組合/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/Rethink PROJECT/河北新報社(順不同) ◎後援/宮城県、仙台市、石巻市、気仙沼市、岩沼市、東松島市、山元町、女川町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設 HPをご覧ください。